

Book Review

デンタルオフィスナビゲーション 歯科衛生士って素敵な仕事 1週間・1年・3年

田中秀樹・倉富 優 著



Reviewer

下川公一

(北九州市・下川歯科医院)

B5判 112頁
定価 3,360円
(本体 3,200円+税 5%)
医歯薬出版刊



現代建築の粋を凝らした豪華で洒落な歯科医院が増えてきている。しかしそれも、手入れを行い、管理を続けなくては、2、3年もするとあっという間にくすんだ歯科医院となってしまう。スタッフも、初めは情熱に目を輝かせながら勤めていたとしても、院長の姿勢やスタッフのチームとしてのあり方によっては、やがてその情熱も冷めてしまう。

今、院長が最も頭を悩まし、その対応に苦慮している、歯科衛生士の確保と教育、そして勤務の永続性という問題に対する的確で実践的なヒントを与えてくれる書籍が発売されていた。その本は、知らず知らずのうちに歯科医師や歯科衛生士の間で話題となっており、スタッフ教育やその確保に悩んでいる一般開業医の間でも大変役に立つと評判になり始めた。

特筆すべきことは、1週間、1年、3年と表紙に謳ってあるキーワードに象徴されている。初めて歯科医院で勤務する歯科衛生士としての心がまえから、最初の1週間の過ごし方が大切であると書かれているが、自分の生きかたは自分で決める、患者さんを通

じて人間関係を学ぶ、歯科衛生士としての生き方を通じて、人生そのものを学び、成長してほしいという院長からのメッセージが発信されている。

就職が決まると、雇う側も勤める側も、お互いに期待しながらスタートしていくが、残念なことに、ほとんどの歯科医院で、満足しかつ希望をもって日々の仕事に携わっている歯科衛生士はそれほど多くはいない。一方、院長もいろいろ言いたいことがあるはずなのに、それを口に出して注意もできず、辞める・辞めない、数が足りる・足りない、雇用条件が良い・悪いといった院長とスタッフとの間の人間関係に振り回されて日々の診療に支障をきたしているのが現状である。

歯科医院は、院長、スタッフ、医院の衛生環境、患者さん、この4つのアイテムが融和して醸し出す雰囲気づくりが大切である。評者は著者の医院を訪れたことがあるが、院長の歯科医療に対する理念や治療技術の完成度が歯科衛生士の底力に支えられ、躍動感あふれる魅力的な歯科医院をつくり出している。

歯科衛生士を中心としたスタッフの

チームワークを無理なくつくり出し、スタッフの変動があったとしても、そのマニュアルが継承されていることも重要なポイントである。私も本書をスタッフに教科書として持たせているが、とりわけ、新しく入ってきたスタッフには、まず本書を読んで理解させたい。さまざまなアドバイスをするとう効果的である。

歯科医院は、院長が年をとり、スタッフとの年齢差が開くにしたがって、人間関係やチームプレーにもさまざまな問題が生じてくる。大切なことはいくつになっても院長の医療理念の軸がぶれないことではあるが、それを個々のスタッフ、そして、それをまとめたチームに浸透させておかなければ、いかにきれいごとを言っても人はついてこない。

この本をスタッフに与えて読ませることは簡単だが、スタッフがその本質を理解し、チームの一員として働けるようになるのは、それほど容易ではない。また、院長自身がこの本の内容を医療として理解しておかなければ、それが単なる徒勞に終わることは言うまでもない。